

<令和6年度奈良県文化創造ギャザリングでの議論>

美術館整備の基本コンセプト **「地域に根ざし、世界に開かれた美術館」**

① ソフト面について

- ・ 収集方針だけでなく、活用方針の策定
- ・ 周辺に社寺等が多い立地を考慮すると歴史と今が繋がっていると実感できるようにすることが必要
- ・ 東アジアや奈良という 場所性に根ざした活動の実施
- ・ コト、体験ができることが重要
- ・ インクルーシブアートの推進

② ハード面について

- ・ 今よりも広い展示スペースがあるのが理想
- ・ 大型作品も展示できる 天高の常設展フロアの設立
- ・ 収蔵庫不足の問題
- ・ 子ども達のための レクチャーホールの設立
- ・ ショップ、カフェなど 日常利用できる場所の提供
- ・ 複合化施設による集客力の向上
- ・ 既存建物の 高層化が必要

○ 美術館の現状、課題を踏まえて、基本構想策定中。

○ 現美術館敷地において天井高及び面積を確保するためには「高さ規制の解除」が必要不可欠。

（ただし、高さ規制の解除は簡単にはできない。）

○ 現地建替に加え、場所性を重視し近辺への移転も含め検討。

奈良県立美術館整備基本構想の策定について

< 構想策定に向けた基本的な進め方 >

基本コンセプト 「地域に根ざし、世界に開かれた美術館」 の具体化

① ソフト面の検討（P3-P14）

- ・ 奈良県立美術館の特徴を把握
 - ・ 美術館活動の理想像を整理
 - ・ 目指す方向性を検討
- （参考）他美術館事例の収集

② ハード面の検討（P15-P16）

- ・ 既存施設の状況を把握
- ・ 法的規制の整理
- ・ 望ましい整備条件の抽出
- ・ 再整備に必要な費用項目の整理
- ・ 現地建替以外の可能性

奈良県立美術館整備基本構想の策定について

①－ 1. 奈良県立美術館の特徴と今後の構想策定に向け整理すべき事項

(1) 寄贈を中心とした資料収集

資料的価値が高い作品が多い一方、奈良県の美術の流れを語れるコレクションが形成できていない

- ・ 奈良で生まれ育ち、作家活動は世界的な視野で活動している作家
- ・ 奈良ゆかりの作家で今後の活動を支援する作家 など新たな収集方針も必要

(2) 教育普及事業が十分ではない

多様な利用者へのアプローチのため、アウトリーチやワークショップの充実が必要（R7年度より開始）

(3) 常設展示や無料公開スペースがなく、休館日が多い

（R5年度開館日数185日） ※博物館総合調査「美術館」開館日数290日（中央値）

- ・ 新たな施設で常設展示室や無料の交流スペースの確保が必要
- ・ 県民や観光客等の利用を促進し、奈良の文化に親しむ機会を提供

(4) 県民の文化活動発表の場が不十分（貸館エリアがない）

県民ギャラリー機能の検討が必要

奈良県立美術館整備基本構想の策定について

①－ 2. 美術館活動の理想像

- より多くの県民の創造力を刺激し、奈良の文化的なポテンシャルを高める
- 奈良県の芸術文化の魅力を発信し、奈良県のブランド力の向上に寄与する
- 奈良県と多様な芸術文化の交流により、新たな芸術文化を生み出す
- 奈良県の文化施設連携の中核施設の形成

①－ 3. 目指す方向性

・ 地域に根ざし



奈良県ゆかりの芸術文化に光を当てる

県民の芸術文化活動の場になる

・ 世界に開かれた



奈良県民が多様な芸術文化と出会う

奈良県の芸術文化を世界に発信する

●所在地 鳥取県倉吉市（倉吉パークスクエア隣接）

●開館年 2025年3月

●事業手法 PFI（BTO方式）

●設置者 鳥取県

●運営者 鳥取県立美術館パートナーズ株式会社



鳥取県：学芸部門（美術品の収集、保存、調査・研究、展示、教育普及業務）

SPC：設計・建設業務、開館準備業務、維持管理業務、学芸補助（ポップカルチャー企画展等）、施設運営（案内、広報・集客、カフェレストラン、ミュージアムショップ）、管理部門（総務・施設管理等）

●建築概要 敷地面積17,892㎡、延床面積10,598㎡、地上3階

●諸室概要 1階：ひろま、県民ギャラリー、ホール、スタジオ、ミュージアムショップ、カフェ、キッズスペースなど

2階：コレクションギャラリー

3階：企画展示室、特別展示コーナー、展望テラス

●フロアガイド <https://tottori-moa.jp/visit/floormap/>

ミッション・ステートメント

感動や安らぎを与えると同時に、主体的に考える機会を提供する美術館

利用者が美術をとおして感動や安らぎを享受するだけでなく、自分や世界について思いをめぐらせる場となります。

社会に向かって開かれ、多様な価値観を受け入れる美術館

誰に対しても開かれた公共の空間として、多様な価値観をもった人々が集い、お互いの価値観を尊重しあいながら美術を享受する新たな賑わいの場を創り出します。

与えられた価値に安住するのではなく、新しい価値を生み出していく美術館

美術をめぐって歴史の中で共有された価値を作品として未来に伝えると同時に、新たな価値を生み出し、文化をさらに深めていく原動力となります。

すべての人にとって、美術を介した能動的な学びの場となる美術館

自ら問いを立てて、一つだけではない答えを求める学びの場、アート・ラーニング・ラボとしての機能を取り入れ、子どもから大人までが「アートを通じた学び」を深めることに関わります。

地域に貢献し、県民の誇りとなる美術館

鳥取という土地と歴史が培った文化を世界に発信していく場所であると同時に、地域の中核の美術館として、県民のみなさまが豊かな文化とともにある誇りの拠り所となります。

注目ポイント

① コレクション展示の重視

○コレクション概要

- ・総点数は1万点超(2024年3月現在／作家の関連資料含む)
- ・鳥取県の美術：各時代を代表する優れた美術作品、鳥取県の自然や風物を題材にした優れた作品、郷土の作家とつながりをもつ国内外の作家の優れた美術作品
- ・国内外の優れた美術：鳥取県の美術を相対化するために必要な国内外の作家による優れた作品。特に、①江戸絵画の多様性を示す優れた作品、②近代（明治～戦前）における各分野の参照点となる優れた作品、③戦後の美術・文化の流れを示す優れた作品の3つのカテゴリーを重点的に収集
- ・同時代の美術の動向を示す作品：国内外の若手や中堅作家を中心に、過去20年間でめざましい活動を行った作家、当館の企画展およびスタジオ・プログラムに参加した作家、国内外の公立美術館での発表・重要な展覧会に参加した作家の作品

○「コレクション・ギャラリー」（5室、各180～200㎡）

ギャラリー1・2：油彩画の展示が中心。2室の一体利用も可能

ギャラリー3：彫刻・工芸などを展示。天高7メートルの採光窓を設置

ギャラリー4：写真や版画を展示

ギャラリー5：中近世絵画や日本画、書等を展示

国宝・重要文化財を展示できるケースを設置

※別途、「企画展示室」約1,000㎡を設置

注目ポイント

② 地域に開かれた共用空間

「ひろま・えんがわ」

館内の全フロアを縦に貫く高さ15mの巨大な空間「ひろま」では、展示やワークショップ、コンサートなど多様な用途に利用。

教育普及のためのスペース（スタジオ、ホール、キッズスペース等）とのつながりを重視すると共に、屋外空間の「えんがわ」を介して、屋外の国指定史跡とシームレスにつながる。



ひろま

※美術手帳

<https://bijutsutecho.com/magazine/news/report/28766>

注目ポイント

③学習支援 【A.L.L.アート・ラーニング・ラボ】

子どもたちをはじめとするすべての人が、アートを身近に感じて楽しむことをめざして、「アートを通じた学び」についての調査研究・事業実践を推進。

学校向け「MUSEUM START BUS」、対話鑑賞の推進とノウハウの伝達、授業相談対応など、学校内外での「アートを通じた学び」をサポート。

- A.L.L.通信（オール）教育普及不定期刊行物
- 美術館体験プログラムへのバス招待事業「MUSEUM START BUS」（鳥取県内の全小学校、義務教育学校、特別支援学校小学部の4年生を美術館へ招待）
- 対話鑑賞ファシリテーションに関する研修、ファシリテーター登録
- アウトリーチ事業 等

※貸館利用の手引き

<https://tottori-moa.jp/wp-content/uploads/2025/02/%E8%B2%B8%E9%A4%A8%E5%88%A9%E7%94%A8%E3%81%AE%E6%89%8B%E5%BC%95%E3%81%8D0120.pdf>



長野県公式WEBサイト
<https://www.pref.nagano.lg.jp/shisetsu/infra/kensetsu/proposal/shinanobijutsukan.html>

●所在地 長野県長野市（城山公園内・善光寺東隣）

●開館年 昭和41（1966）年10月、
令和3（2021）年4月新装オープン

●設置者 長野県

●運営者 （一財）長野県文化振興事業団（指定管理者）

●建築概要 [本館] 敷地面積16,363㎡、延床面積11,324㎡、地下1階・地上3階
 [東山魁夷館] 敷地面積4,675㎡、延床面積1,882㎡、地上2階

●諸室概要 [本館]

地下1階：しなのギャラリー※、ホール※、収蔵庫 ※貸出施設

1階：エントランスホール、展示室1、交流スペース、
ミュージアムショップ、アトライブラリー、収蔵庫

2階：展示室2・3、コレクション展示室、展示準備室、アートラボ、
レストラン、連絡ブリッジ、事務室

3階：レセプションルーム、カフェ

●館内マップ <https://nagano.art.museum/info>

長野県立美術館の4つの柱

1 多様なアートと出会い、世界観を広げる「鑑賞」

本館及び東山魁夷館において収集・保管している作品のコレクション展のほか、企画展や県下各地での移動展を通じて、多くのみなさまが近代美術から現代美術まで、質の高いアートに出会える機会を提供します。

2 アートを通じて豊かな心を育み、生きる喜びを実感する「学び」

世代を越えて誰もが参加できるプログラムを提供するほか、来館者とアートを結ぶアート・コミュニケータの活動を通じて、アートを楽しく学ぶことができる環境づくりに寄与します。

3 他者との協働により、深く新しい視座を開拓する「交流」

県内各地の美術館などの文化施設、美術家のグループ、また地域の観光施設などとアートを介して連携することにより、地域の拠点施設としての役割も担います。

4 美術作品などの文化資源を調査研究し、公開する「研究」

5,500点余のコレクションを文化資源として調査研究を深めていくとともに、アートに関する最新の調査研究の成果や美術書を中心とした蔵書等のデータベースを公開していきます。

注目ポイント

① アートを介した様々な交流を生み出す「交流スペース」

- ・ オープンギャラリー：公開制作、県内アートプロジェクトの紹介等、現在進行形の創作活動を随時紹介
- ・ 子どもアートラボ：身近な素材を用いたワークショップを毎月開催



注目ポイント

② インクルーシブ・プロジェクト

「場をひらく」

- ・ 障害のある方のための特別鑑賞日：休館日に開催
- ・ ベビーカートツアー：学芸員の解説を聞きながら作品鑑賞
- ・ ギャラリートーク：一部の企画展で手話付きのイベントを開催
- ・ トークフリーデー

「感覚をひらく」

- ・ アートラボ：作品に直に触れてアートを楽しむことができる、視覚に限定しないさまざまな鑑賞が可能な展示室
- ・ 感覚で楽しむ鑑賞会：多様な背景を持つ人が集まり、言葉を交わしながら鑑賞するイベント
- ・ ひらくツール：美術館の触地図、ふれるアートカード、美術館の素材をキューブ状にした「たてものキューブ」、拡大文字版・点字版の美術館ガイド、作品鑑賞ツール「ふれるコレクション」

注目ポイント

③県内との連携

- ・ スクールプログラム：長野県内の学校団体を対象に、子どもたちに初めての美術館体験を提供。
- ・ 長野版アートゲーム：長野県内の美術館・博物館・寺社等の所蔵作品100点を掲載した貸出専用作品カード。さまざまなゲームを通じて、美術を身近に感じることができる。
- ・ 交流展：当館収蔵作品を活用し、県内各地の美術館と共催。地域の魅力を再発見する機会、また、各館学芸員との交流・連携を深めることを目的とする。
- ・ 移動展：県内各地の文化施設において、収蔵作品の移動展を開催。
- ・ 県内アートプロジェクト紹介：県内各地で実施されているアートフェスティバルやアートプロジェクト等を紹介。
- ・ 地域連携事業：隣接する善光寺を中心とした地元地域との交流や連携により、活気あふれるまちづくりに貢献。また、地域の人々と連携し、すべての人が世代を越えて、アートを楽しみアートを学ぶことができるような事業を実施。

奈良県立美術館整備基本構想の策定について

②－１．既存施設の状況

住所	奈良市登大路町10-6		
敷地面積	5,780㎡	延床面積	5,451.20㎡
展示面積	1,621.32㎡	収蔵庫	621㎡※前室含む
法規制	・市街化調整区域（容積率200／建ぺい率40） ・準防火地域（延床1500㎡以上の施設は主要構造部を耐火構造） ・第五種風致地区（春日山風致地区／ゾーン9／高さ規制15m） ・歴史的な風土景観区域（建物配置・規模、形態・意匠、色彩・材料への配慮等）		
その他	・収蔵庫は過密状態、また半地下にあるため、水害時に被害を受ける可能性 ・展示室の天井高（最大4m） ・トラックヤードはなく、最大4トントラックまで横付け可能		

〔現状立地で整備する場合の課題〕

- ・既存施設の建築は美術館として基盤機能が不十分で、**増築や改修による解消は難しい状況**
- ・現敷地に新たな施設を新築する場合、風致地区規制や遺構の保存等により、**必要な機能を備えるために十分な延床面積、天井高を確保できない可能性が高い**
- ・既存建築を解体し新築する工程が必要なので、**閉館期間が長期間にわたるとともに、閉館期間中の収蔵資料の保管スペースの確保が必要で、大きな費用負担が生じる**

奈良県立美術館整備基本構想の策定について

②－２．現地建替以外の可能性

美術館HR、現状の課題を踏まえ現地建替以外の可能性を幅広く検討

名称	財産区分	建物面積	土地面積
旧奈良高校	普通財産	13,617㎡	41,344㎡
状況：最寄り駅（新大宮駅）から徒歩25分（近鉄奈良駅よりバス有、最寄りバス停から徒歩7分） 建物有（耐震性能有5棟、耐震性能無6棟） 進入路が狭小（大型車の進入が難しい）			
旧奈良工業高校	普通財産	29㎡（※1）	63,244㎡
状況：最寄り駅（菖蒲池駅）から徒歩25分（大和西大寺駅よりバス有、最寄りバス停から徒歩3分） （※1）更地 令和8年度中に住宅開発を前提として売却予定			
奈良春日野国際フォーラム～薨～	行政財産	9,089㎡	48,432㎡（※2）
状況：最寄り駅（近鉄奈良駅）から徒歩20分（近鉄奈良駅よりバス有、最寄りバス停から徒歩1分） 現役コンベンション施設 ※令和3年度文化振興懇話会において、別館の活用を議論。			

- ・県有地から奈良市内にある土地面積10,000㎡以上または建物面積5,000㎡以上を抽出
- ・県民生活、インフラ、福祉、医療にかかる用地、10年以内に整備または整備中、整備予定のある施設、公園地、山林、公共交通機関によるアクセス困難地、定期借地権等が設定されているものを除外

（※2）国有地使用貸借（無償）